

令和6年度 学校評価 北小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	教育目標 未来に向かって、一人ひとりが輝く北っ子の育成 ～ 考え動き 人とつながり 未来に向かう子 ～
本年度の重点目標	○主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業と考え動く特別活動の充実を図ります ○児童との絆づくり・居場所づくりを進め、安全・安心な学校を推進します ○地域と協働し、地域も学校も元気になる取組を推進します

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	兵庫型学習システム（木村）	多くの教師による多面的な理解に基づく指導や複数学年を見通した系統的な指導を行い、どの児童も意欲的に学習に取り組める支援を進める。	A	毎週の打ち合わせで児童の実態を交流し、授業内容や児童への声掛けを工夫して進めることができた。教科ごとに、学習理解が困難な児童やつまづいている児童への適切な支援を行うことができた。学習面や生活指導面の早めの対応ができ、どの学年も落ち着いて学習に取り組むことができた。
	地域住民との連携（藤田）	「地域とともにある学校作り」を目指して、学校運営協議会をもとに地域の思いを汲んで、学校の教育活動への積極的な参加を促進していく。	A	全校で進める大きな学校行事だけでなく、各学年の様々な学習にも多くの地域の方に参加いただくことができた。講師をコーディネートしていただいたり、時には自ら講師をしてくださったりと、運営協議会の皆さんにも多くかかわっていただくことができた。今後はさらに地域との合同防災研修会を企画するなど、新しい取り組みも広げていきたい。
教育課程	指導方法の工夫改善（村上）	児童の学びを深める対話的な授業を実践する。また、従来の教師主導の一斉授業にとどまらず、児童が自ら課題を設定・解決する授業を行い、主体性を育む。	B	北小の児童は素直な子が多く、授業も座って真面目に参加できている。だからこそ児童が主体的に学んでいけるような、あと一步レベルアップできる手立てを打てる環境にある。そのために今年度は、授業改善の提案となるような研究授業や学習課題の設定方法、子どもたちが自分で学び方を選択できるような自走学習の進め方、特別支援教育についての校内研修を積極的に設定し、教師の指導力向上を積極的に行った。
課題教育	特別活動（藤田）	縦割り遊び等、縦割り班活動を活発におこない、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的な態度を育てる。	B	縦割り班活動では、掃除や遊びなど多くの機会に関りを持つことができた。上級生のリーダーシップ、下級生のフォロワーシップを育む良い機会であり、これからも続けていきたい。委員会活動ではそれぞれ多くの常時活動を持つなか、みんなを楽しませる企画も多く行うことができた。今後はさらに新しい企画を設定するなど、より子どもたちが主体となって進めていけるようにしていきたい。
	不登校（木村）	楽しく魅力ある学校、安心・安全な居場所となる学級づくりに全職員で取り組む。関係機関と連携し、個に応じた効果的な支援を考え、行っていく。	B	各担当が、早めの児童への声掛けや保護者への連絡を行った。また、色々な教師がそれぞれの児童に合わせた支援を積極的に行った。学校が楽しいと思える取り組みを児童会や各担当が工夫して行った。SCとの面談を進め、児童や保護者の心の安定を図った。また、サポートタイムの不登校支援員による登校しにくい児童や不安を抱えている児童への温かい関わりも児童の心の安定につながった。不登校児童については、担任や養護教諭や管理職など多くの教師が家庭訪問等を繰り返しながら、家庭とのつながりを切らさないようにした。様々な取り組みにより、今年度は、大きく不登校傾向が改善された。更に、どの子どもも安心できる学校づくりを教師全員で協力して進めていきたい。

<p style="text-align: center;">健康 教育 (山岸) (小林)</p>	<p>研修推進・保健・体育で、やわジャン・ジワットとシットの取組に加え、学習に向かうことのできる体づくりの1つとして神経系へのアプローチ・体幹を鍛える朝チャレの取組を行う。</p>	B	<p>やわジャン・ジワットとシットを各クラスで授業の最初の挨拶の後に取り組むことができた。また、朝チャレを行うことで、体づくりにつなげることができた。改善策として、朝チャレのレベルが児童の実態に合っているのかを把握して、成長段階に合った朝チャレに取り組んでいきたい。</p>
---	--	---	---

3 学校関係者評価

- ・学習環境が整っており、落ち着いた学校生活を送ることができている。
- ・児童のスマホ使用：保護者のみならず祖父母も関係してくる。脳の発達に影響することなど、広くアナウンスする必要がある。ノーメディア期間の設定はありがたい。
- ・読書時間の減少：1冊の本を読み切ることができない。音読指導だけでなく、読書活動を促す取り組みも必要だ。
- ・「未来に向かう子」：子ども達の未来に「さちよ」があるように、ふるさと教育を大切にしてほしい。
- ・町の幸福論が、ふるさと幸世を考える機会になってよかったが、今年度からなくなり残念だ。子どもも一緒に熟議を開催したい。
- ・地域と連携した防災体制を作っていきたい。

4 次年度の改善の方向性

今年度は、「明日も来たい」と思う学校づくりを目指して取り組んできた。学校評価アンケートでは、「学校へ行くのが楽しい」と肯定的に答えた児童が90%（昨年度85%）、「勉強がわかる」と肯定的に答えた児童は90%であった。不登校児童も減り、昨年度からは改善はされているが、来年度は100%を目指してさらに取り組んでいく。

来年度も、まず、今年度同様、特別支援教育の視点を基盤に児童理解を進め、一人ひとりの居場所づくりを大切にしていく。また、対話を中心に据えた課題解決学習の推進、校外学習や学校行事、縦割り班活動等の特別活動、地域と連携した教育活動を進めていく。

「分かった、できた、頑張った、褒められた」で笑顔が溢れる児童を目指し、児童も職員も、「明日も来たい」と思う学校づくりを目指していく。

令和 7年 3月 1日
学校名 丹波市立北小学校
校長名 小林敬子

(行が足りない場合は、適宜増やしてください。)